2024 年 6 月 4 日発行

一般社団法人 すこやかの会ふくしま（第２号）
NPO 法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会（第 28 号）
ニュースレター　合併号

本号は、一般社団法人「すこやかの会ふくしま」と NPO 法人「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」のニュースレターの合併号として、2 つの法人の活動の報告をします

REAL VOICE 上映会を開催しました

社会的養育出身者のドキュメント映画 REAL VOICE（ニュースレター26 号で紹介）の上映会・監督山本昌子さんと西坂來人さんのトークイベントを、一般社団法人すこやかの会ふくしまの主催で、12 月 10 日にラコパ福島にて開催しました。

山本さんと本会の出会いは、ACHA プロジェクト（社会的養育出身者の 20 歳の節目に振り袖を着る）でした。2018 年 11 月に NPO 法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会（以下 ICA 福子）の塩飽仁共同代表が児童養護施設の職員を対象に「発達障がいをもつ子供の特徴と対応方法」を開催し、この時に西坂さん（福島県内児童養護施設出身）と共に参加。2 歳から児童養護施設で育ったお話しを山本さんと昼食を共に摂りながら聞かせてもらいました。

ACHA プロジェクトの振り袖姿の撮影は、「二十歳の大切なあなたを祝う」のですが、「実は数日前に自殺未遂をした」ということを聞き、山本さんはさらに一歩踏み込み、社会的養育出身者の生の声を集めた映画作りのきっかけとなったことをトークイベントで聞かせてもらいました。70 名の当事者の取材、そして 5 名に密着取材、しかし 4 名からは許可が出ず、さらに取材したのがメインキャストの福島県出身の紫桜（しおん）ちゃんだったことを語ってくれました。

福島民友新聞、福島民報新聞、毎日新聞、福島市民活動フェスティバル（福島市市民活動サポートセンター主催）での広報活動をして、当日は約 50 名の参加者にいらして頂きました。

参加者の感想では、「演出がなく当事者のリアルな言葉を引き出したことができている作品、社会人の一人として、現実を突きつけられ考えさせられました」等が聞かれました。

上映後のトークイベント
フリージャーナリスト藍原寛子さんがファシリテーター

当日のスタッフと山本さん、西坂さん

卒園生に「健康手帳」、体温計、バンドエイドを贈りました

1.「健康手帳」を16名に贈りました

2011 年３月 11 日から 13 年が経過し、東京電力福島第１原子力発電所事故当時、4～5 歳だった子どもが、この３月で児童養護施設を巣立っていきました。今年は、6 施設の 15 名と昨年から措置延長だった若者１名、家庭復帰した中学３年生に「健康手帳」を贈ることができました。この 15 名のうち、2011 年から 13 年間施設にいた子どもは 6 名であり、その他の子どもは原発事故の時は、家庭にいました。最近は高校２年生、３年生になって入所してくる子どもがいて、その子どもは、自分でも事故当時どこにいたのかがわからない上に、その後も転居を繰り返していたり、また、母子手帳を持っていない場合は予防接種の記録がわからないケースがいました。「健康手帳」を渡さない２施設でも体温計とバンドエイドは卒園生に贈ってもらいました。

2018 年～開始した、卒園・自立後の健康管理のお話し（澤田代表）を、今年は３月に卒園生が生活している小規模ホーム 2 カ所で 2 回に分けて二名づつ行いました。

卒園後の生活や発達の特性に合わせて対話形式で展開しました。

2.「健康手帳」の変遷

ICA 福子設立１年後の 2013 年３月に、元共同代表丸光惠氏と櫻井育穂氏（現所属　埼玉県立大学、当時 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科）が制作した冊子体の「健康手帳」を、２施設６名の卒園に贈りました。同時に、施設にバックアップが保管できるように「健康手帳のソフトウェア」の開発を始めました。当初は、2011 年３月当時施設に在籍した子どもが高校３年まで施設にいることを想定して「健康手帳」を作成しました。そして、「健康手帳」を施設から自立する卒園生全員に贈れるようになる 2014 年以前に卒園した若者に、担当施設職員に届けてもらう事業は2014年から3年間４施設 13 名にアフターケアの一貫として実施してもらいました。

2011 年３月の原発事故当時、約 450 名いた子どもは、これまでに卒園以外にも、施設を退所していきました。これは厚労省の「新しい社会的養育」で、可能な限り家庭的な養育で暮らす方向で、家庭復帰、里親に措置される子どもが増えているためです。

児童養護施設に措置される子どもは、原発事故後に入所してきた子どもが多数になり、最近は高校生になってから入所するケースもいます。このような子どもは、施設入所以前の被曝モニタリング検査（ガラスバッジ等）や甲状腺エコー検査結果、福島県県民健康調査の甲状腺検査 ID 番号がわからないケースがあります。そして、事故当時、住んでいた場所の情報を施設が持っていない子どももいます。

児童養護施設での暮らしは短期間となって家庭に戻る子どもには、家庭復帰するときに「健康手帳」を家族に渡すことで、施設にいる間の身長・体重の伸びなどの成長や予防接種状況、甲状腺検査結果などを知ることにも役立っています。

3. 社会的養育を取り巻く環境変化

このように、12 年の本会の活動の間、「児童養護施設」をはじめとする「社会的養育＝保護者から適切な養育を受けられなかった子どもが公的責任で保護・養育する仕組み」が変わってきました。2024 年４月現在、回答を得られた６施設で入所児童の１／３が震災の時に児童養護施設にいた児童になっています。

児童養護施設を卒園あるいは家庭復帰などで退所後に就業した先として、原発の廃炉現場や帰還困難地域の高線量の建物の解体作業などがあり、線量計をつけながら仕事に従事している卒園生がいます。この現状から、今後、被曝による健康被害の発生を想定した支援は継続が必要となることも予想されます。

2011 年３月に事故を起こした原子力発電所の廃炉計画が未確定な中、引き続き、親に頼れない子どもや若者の支援をお願いいたします。

卒園生からみた「健康手帳」

2023 年秋に卒園生 133 名に行った食料支援では、グーグルフォームにより、〝「健康手帳」と体温計が役に立っているか？〟を尋ねました。すると 38 名から回答が得られ、表の通りです。同時に健康診断を受けた経験と健康診断の受診希望も尋ねて、受診希望の二名の卒園生は、すこやかの会ふくしまの支援で甲状腺検査を始めとする希望した健康診断やアレルギー検査を受けました。

また甲状腺検査が必要な県外在住の卒園生の交通費の補助を、受診を支援しました。

表.健康手帳と体温計は役に立ちましたか？（回答 38 名）

	役に立った	少し役に立った	あまり役に立たなかった	なくした	もらっていない
健康手帳	13	13	7	3	2
体温計	22	11	0	1	1

第 51 回　福島県「県民健康調査」検討委員会が開催されました

福島県「県民健康調査」検討委員会が 2024 年５月 10 日、福島市内で開かれました。昨年 12 月 31 日までの検査結果では、新たに２名が甲状腺がん確定、５巡目で悪性と診断されて手術をしたのは 36 名（悪性・悪性疑いは 45 名）になりました。これまでに、悪性・悪性疑いと診断されて手術をした合計人数は 330 名となり、がん登録で把握された 2018 年までの集計外の患者 43 名をあわせると、事故当時、福島県内に居住していた 18 歳以下の子どもの甲状腺がんは、術後に良性だった一人を除き 372 名となりました。

また、「妊産婦に関する調査」の最後の調査報告が行われ、今後は、相談活動のみになります。この調査は、福島県内の妊産婦が放射能による子どもへの影響に対して不安を抱えているという背景から、「県民健康調査」の詳細調査の一つとして、2011 年度から 2014 年度までの４年間実施され、その結果 2011, 2012 年度に出産した母親に不安やうつ傾向が見られたので、その後４年ごとにフォローアップが行われました。４年ごと３回の調査で「放射線への影響や心配」「子どもの健康」に不安があると回答は低減しているものの、「子どもの健康」に不安があると回答した人は、2014 年に出産した母親の調査の ２ 回目フォローアップ調査結果（令和４年実施）でも 58%でした。

一方、子どもの出生時の異常の増加はなかったとされますが、本調査は母親からの自己申告という限界があります。早産率や低体重児の比率や先天異常の発生率も、母親からの我が子が該当か否かの回答から算出されており、全国の平均と差はないと、医療者の客観的裏付けデータ無しに評価されてきました。

事故原発の海洋放出は？

東電福島第 1 原発で発生した汚染水を浄化処理した後、トリチウムを含む水の海洋放出は、６回目が５月 17 日～６月４日まで行われています。7,800 トンの処理水が放出される予定です。今年度は合計７回が予定され、後５回で合計 54,600 トンが海洋に放出されます。

本年度初の放出（５回目）は、４月 19 日～５月７日で約 7,850 トンを放出しました。トリチウムの総量は１兆 5,000 億ベクレル、この放出では、原発周辺の海水に含まれるトリチウムの濃度が５月３日に、これまでで最高の１リットル当たり 29 ベクレル（放出口から北 200 メートル地点）を検出しました。（放出停止基準は 700 ベクレル）。

５回目の放出では、４月 24 日に原発構内で停電するトラブルが起き ６ 時間半放出が中断しました。停電トラブルは構内の掘削作業中、作業員が誤って深く掘りすぎて電源ケーブルを損傷させたことが原因でした。ここ最近、汚染廃液漏れや作業員の被ばくなどトラブルが相次いだことから、東京電力は約 800 件の作業の手順を確認する点検したと発表しています。

ご支援いただける活動へご寄附を

NPO 法人 ICA 福子へのご寄附

主な活動対象：児童養護施設に入所している子ども向け事業
実施事業
- 施設の災害対策や原発事故による教訓のまとめ
- 被ばくモニタリング検査としての甲状腺検査
- 健康手帳 贈呈事業
- 卒園前の準備教育
- 児童養護施設の看護師研究会の支援

一般社団法人すこやかの会ふくしまへのご寄附

主な活動対象：卒園した若者の健康を支える事業
実施事業
- 甲状腺の検査を受ける卒園生への交通費補助
- 健康診断(含 甲状腺検査)受診補助
- 食料支援
- 健康被害発生時の検査・治療

ゆうちょ銀行
店名：二二九店(店番号 229)　種類：当座預金
番号：02220-2-118684
名称：福島児童養護施設の子どもを考える会

ゆうちょ銀行
店名：二二九店(店番号 229)　種類：当座預金
番号：02230-5-128642
名称：一般社団法人すこやかの会ふくしま

感謝！　ご寄附・未使用切手、会費納入を頂いた皆様　(順不同　敬称略)

▼NPO 法人　福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会(2023 年 11 月 16 日～2024 年 5 月 20 日)

国際基督教大学高校キリスト教活動委員会、響歯科医院 池田香里、Casa d'angela 天使の募金（永見 亜矢子）日本基督教団 下落合教会、下落合教会学校、日本基督教団 南山教会、日本基督教団 名古屋東教会、日本基督教団 大泉教会 日本基督教団 夙川東教会、日本聖公会 GFSワールドプロジェクト、宗教法人 日本ルーテル教団、東光学園内 子ども礼拝 池上ルーテル教会、戸塚ルーテル教会、戸塚ルーテル教会学校、戸塚ルーテル教会附属幼稚園、社会福祉法人 堀川愛生園 児童養護施設 唐池学園募金箱、（株）山のハム工房ゴーバル、感じる心を大切にする会、ミホプロジェクト祈りのコンサート 阿久澤 麻理子、荒木 暁子、安間 てう子、生田 和正、池口 佳子、池住 義憲、池田 香里、池田 むつみ、石川 信克 石渡 美砂子、礒部 和子、市川 誠子、伊藤 信彦、伊藤 良子、糸柳 尚子、犬塚 茂生、猪熊 京子、今井 真純、岩崎 美里 岩田 千鶴子、宇井 志緒利、牛尾 幸世、内丸 ちづ子、榎本 順一、蝦名 美智子、大川 記代子、太田 信吉、大谷 俊樹 大谷 尚子、大塚 千織、大橋 正明、大橋 めぐみ、大畑 美和子、大町 敬子、岡田 友子、奥野 順子、小熊 三重子、角地 弘子 数間 恵子、金澤 トシ子、金子 みどり、神津 陽子、河野 道太、木村 泰幸、工藤 美子、神戸 信行、小尾 尚子 小松 美智子、権田 倫子、近藤 真由美、齋藤 久夫、齋藤 みきこ、笹鹿 美帆子、澤井 映美、澤田 稔、柴田 恵子 清水 清美、島津 徹・琴音、白鳥 まゆみ、塩飽 仁、菅波 靖夫、杉村 恵子、鈴木 栄一、鈴木 千衣、銭谷 美幸、高木 史江 髙坂 美枝、髙橋 明男、髙橋 千治・玲子、髙橋 弘、田上 文子、高柳 允子、滝口 香奈子、武井 めぐみ・陽一 竹内 由美子、田知本 みどり、田中 とよ美、土屋 秀、津山 春香・夏維、重富 由美子、中嶋 隆宏・祐子、長島 令子 中田 勇二、中野 陽子、長畑 左樹子、長松 康子、名取 智子、西口 徹、畑野 研太郎、林 寛子、林原 健治 原瀬 岳・耕・里、原瀬 昌久・光子、福島 洋子、細谷 たき子、本田 裕子、前島 忻治、舛岡 泉、増田 孝子、町田 洋子 松平 信子、松原 悦子、馬淵 由季子、三浦 美智子、三谷 美香、三原 翠、宮田 美恵、宮原 多枝子、武藤 久美子 村上 満子、村川 佳代、村田 貴志子、村田 恵子、安江 真佐子、柳澤 千恵子、山崎 慶子、山田 洋、山田 和子、山中 努 山屋 玲子、湯浅 資之、吉田 妙子、吉村 勉、渡邊 智子、和田 信明、匿名 3 名
助成金：日本ルーテル教団「健康手帳・体温計ほか贈呈事業」

▼一般社団法人　すこやかの会ふくしま）(2023 年 11 月 16 日～2024 年 5 月 20 日)

日本キリスト教団　西千葉教会、響歯科医院、安間 てう子、石渡 美砂子、磯部 和子、岩田 千鶴子、大谷 尚子、大塚 千織 小熊 三重子、小田 美乃里、角地 弘子、金子 みどり、澤井 映美、白鳥 まゆみ、菅波 靖夫、髙山 仁・喜美子、髙坂 美枝 津山 春香、田知本 みどり、中野 陽子、西脇 洸一、舛岡 泉、畑野 研太郎、林原 健治、林 寛子、三原 翠、武藤 久美子 村上 満子、守屋 正子、安江 真佐子、山縣 敦子、山崎 慶子、山田 和子、山屋 玲子、匿名　3 名

NPO 法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会
代表理事　澤田 和美（福島事務所 事務局長）、塩飽 仁（東北大学大学院 小児看護学 教授）
連絡先・Email　fukujidou@yahoo.co.jp　ホームページ　http://www.fukujidou.org
一般社団法人 すこやかの会ふくしま
代表理事　齋藤 久夫（元 児童養護施設 福島愛育園 施設長）
連絡先・Email　fsukoyaka@yahoo.co.jp　ホームページ　http://www.sukoyaka-f.org/
共同事務所：住所　〒960-8055 福島市野田町 6－4－74－5 メゾンオーブ C203
電話・FAX:　024 - 573 - 2939